H16.7.13. 日本下水道新聞

エアレーション

「21世紀水倶楽部」

―中川　幸男―

昨年9月にNPO法人「21世紀水倶楽部」をスタートさせた。発起人は、建設省（現・国土交通省）OB、日本下水道事業団OB、東京都下水道局OBなど11名である。

現在まで、9ヵ月が経過した。会員数は、正会員50名、賛助会員5名である。発起人は下水道関係者（官庁OB）がほとんどであったが、その後、上水道関係者、河川関係者、民間企業出身者、報道関係者も参加し、水関係の全ての分野の力が結集されることになり、「水倶楽部」の名に相応しい陣容になりつつある。

この倶楽部設立の目的は、第1に、上下水道事業等について世間一般に誤解があり、正しい姿が伝わっていない部分が多いことから、この誤解を解消するべく、上下水道事業等に関する各種情報を易しく一般市民に伝え、事業執行に支援を得ようとすること。

第2に、小規模自治体の事業執行は、経験者不足のため円滑な執行が難しいこともあるので、これを支援すること、第3に、OBらが過去に培った経験や技術を有効に活用できる場を提供することである。

初年度の事業活動としては、ホームページを開設し、7つのテーマについての意見交換の場を提供したこと、下水道の海外技術協力に関するシンポジュウムを開催したことである。

初年度であり、執行体制も不備、不慣れな活動、資金不足ということもあって、満足すべき成果までいっていない。今後、徐々に拡大していきたいが、最大の問題点は活動費の確保である。

当倶楽部が主眼とする「非営利活動」といえども、その実施には諸々の経費がかかる。会員の知識と時間の提供は無償で期待できたとしても、備品費、会場費、旅費などまで個人に負担を望むのは行き過ぎというものである。

現状の経済状態では、企業や個人からの「寄付」を期待することも難しい。となれば、自ら活動資金を稼ぐしかないことになる。しかしながら、これにも問題がある。次回には、活動資金確保に関する問題点について述べることとしたい。

（NPO法人「21世紀水倶楽部」事務局長）